



新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉さん、100歳おめでとう

発行 新美南吉生誕 100 年記念事業実行委員会 〒 475-0966 愛知県半田市岩滑西町 1-10-1 新美南吉記念館内



私たちの新美南吉さん 100歳おめでとう！

- 1 パースデーケーキを花で飾って 100 歳を祝う
- 2 式典後に色とりどりの花を献じる来館者
- 3 著作権継承者名義委譲式 (左新美南吉の会代表・右半田市長)

新 美南吉が生きていた
ら百歳を迎えた七月
三十日(火)、新美南吉記
念館では誕生日を祝う式典
や催しが行われ、大勢の市
民や全国の南吉ファンが集
いました。

開館と同時に始まった式
典では、関係者や来賓がプ
リザーブドフラワーでパー
スデーケーキを飾り、百歳
の誕生日を祝いました。会
場のエントランスホールに
は、半田農業高校の生徒に

よる花が飾られ、南吉の童
謡「明日」を歌う半田中学
校合唱部の美しい歌声が響
きました。

続いて図書室では、東京
で新美南吉の著作権を管理
する団体「新美南吉の会」
(代表・渡辺矩夫さん)か
ら半田市へ、著作権継承者
名義を委譲する覚書の調印
が行われました。今後、南
吉作品が正しく広まるよう
著作者人格権を守る活動を
半田市が引き継ぐこととな
り、市長は「期待に沿うよ
う全力を尽くします」と挨拶
しました。

その後、これまで新美南
吉顕彰に尽くしてこられた
方々への表彰式があり、南
吉作品を世に広めた詩人の
故異聖歌、安城高等女学校
の教え子、南吉研究の第一
人者の大石源三さんの三者
に半田市長から感謝状が贈
られました。異聖歌への感
謝状は長女の中川やよひさ
んが受け取り、「天国の父
が喜んでいと思う」と涙
ながらに語りました。また
教え子を代表して受け取っ
た加藤千津子さんも「先生
からご褒美をいただいたよ
う」と感慨深そうでした。



「ことばの杜朗読会」第一部で「ごんぎつね」を朗読する児童（7月27日）



名誉市民章の贈呈式（7月27日）



幕間のトークを半田高校放送部と宮本隆治さんが共演（7月27日）



市民音楽祭フィナーレの全員合唱（7月28日）



「ことばの杜朗読会」第二部で南吉作品を朗読する元NHKアナウンサー（7月27日）

七月三十日の新美南吉の週末を含む九日間、南吉のふるさと半田市では盛大に新美南吉生誕祭が開かれました。

メイン会場の雁宿ホール（半田市福祉文化会館）では、週末ごとに大ホールでのステージイベントが組まれ、平日も南吉童話絵本原画展（七月二十日から先行開催）、市内幼保小中南吉学習作品展、文化協会南吉作品展、南吉ポスター展、絵手紙コンテスト作品展など関連展示が期間を通して行われました。

新美南吉生誕祭

7月27日(土)～8月4日(日)



開幕式典・ことばの杜朗読会

初日の大ホールでは、まず生誕祭の開幕式典が行われ、新美南吉を半田市の名誉市民に推す推挙状と名誉市民章が、半田市長から遺族代表の渡辺矩夫さんへ贈られました。渡辺さんは、「南吉はふるさとの人々と絆を結ぶことを願っていた。天国で喜んでいと思う」と挨拶されました。

その後、ことばの杜朗読会「読み語り」南吉と出逢う」が開催されました。山根基世、松平定知、宮本隆治など元NHKアナウンサー五人が、「狐」「屁」「疣」など南吉の少年小説を中心に、幼年童話や日記なども交えながら朗読をしました。ときおり笑いを誘いながらも、静かに物語の世界へ引き込んでいく言葉の力に会場全体が聴き入っていました。

またアナウンサーの朗読の前には、子どもから大人までの市民による「ごんぎつね」や詩の朗読も行われました。出演したのは市内十三小学校から様々な学年



朗読のあるシンポジウム「南吉童話の『声』」で朗読する西川小百合さんと松丸春生さん（8月3日）



ロビーで演じられた大型紙芝居



生誕祭期間中を通して開催された南吉童話絵本原画展（上）
幼保小中南吉学習作品展示（中）
半田市文化協会南吉作品展示（下）



「南吉が愛したクラシック音楽」で南吉の詩を朗読する中京テレビアナウンサー（8月4日）

朗読のあるシンポジウム「南吉童話の『声』」の朗読のあるシンポジウム「南吉童話の『声』」の朗読の世界・声が結ぶ絆は、朗読家の松丸春生さんと西川小百合さんによる南吉作品の朗読で始まりました。南吉は、声で語られるこ

朗読のあるシンポジウム・南吉童話の「声」

八月三日（土）の朗読のあるシンポジウム「南吉童話の『声』」の朗読の世界・声が結ぶ絆は、朗読家の松丸春生さんと西川小百合さんによる南吉作品の朗読で始まりました。南吉は、声で語られるこ

市民音楽祭

二日目の七月二十八日（日）には、半田市合唱協会と半田市民管弦楽団による「市民音楽祭」が行われました。各合唱団による南吉の詩の合唱曲、オーケストラと合唱による組曲「はんだ」第二曲「南吉」の演奏、最後は「貝殻」と「枇杷の花」をオーケストラの伴奏に合わせ、全合唱団員が歌い上げました。

とを念頭に作品を作りました。そこから生まれる特質や現代児童文学にはない魅力について、児童文学研究者の宮川健郎さんをコーディネーターに、朗読家の畑中圭一さん、発達心理学・教育心理学が専門の秋田喜代美さんがそれぞれの立場から発言し合いました。

最終日の八月四日（日）には、南吉が愛したクラシック音楽の演奏を、中京テレビのアナウンサーによる詩の朗読とあわせて楽しむ催しが行われました。これは平成二十二年から毎年、中京テレビの協力により行われている演奏会の拡大版で、生誕百年の今年には名古屋フィルハーモニー交響楽団を招き、南吉がよく聴いていたベートーヴェンの「田園」など、フルオーケストラならではの曲目が演奏されました。詩と音楽を通して、南吉の世界に浸る贅沢なひと時でした。

とを念頭に作品を作りました。そこから生まれる特質や現代児童文学にはない魅力について、児童文学研究者の宮川健郎さんをコーディネーターに、朗読家の畑中圭一さん、発達心理学・教育心理学が専門の秋田喜代美さんがそれぞれの立場から発言し合いました。

とを念頭に作品を作りました。そこから生まれる特質や現代児童文学にはない魅力について、児童文学研究者の宮川健郎さんをコーディネーターに、朗読家の畑中圭一さん、発達心理学・教育心理学が専門の秋田喜代美さんがそれぞれの立場から発言し合いました。

皇后さまが南吉展示をご見学

国際子ども図書館（東京）

八月八日（木）、東京上野公園にある国際子ども図書館を皇后さまが訪問され、開催中の展示「日本の子どもの文学」をご覧になりました。

この展示会は、明治から現代にいたる日本の児童文学作家や画家について、同館が所蔵する本、絵本、雑誌などを通して、平成二十三年から紹介しているものです。その一部として半年ごとに入れ替える児童文学者コーナーがあります。



今年二月からは生誕百年を記念し、新美南吉が取り上げられていました（八月十八日で終了）。

報道によると、展示をご覧になった皇后さまは、

新美南吉の本の前で、「この話、とても好きでした」「これも読みました」と懐かしそうにお話しされたそうです。

ご出発の際には、玄関前でお見送りをした榊原純夫半田市長と矢口栄前新美南吉記念館長に対して「平成二十二年の行幸啓で」記念館を訪

れた際にはありがとうございます。半田は生誕百年でいろいろされているそうですね。「教え子の皆さんはお元氣ですか」とお声をかけてくださる場面も（上写真）。行幸啓当時と変わらないお元氣そうなお姿と生誕百年に関心を持ってくださっていることに、関係者一同、安堵と感激に満たされました。

新美南吉記念館では、生誕百年記念企画展として十一月九日（土）から『でんでんむしのかなしみ』原画展』〜皇后さまと南吉』を開催します。

（左上・館内の写真は東京新聞写真部提供）



生誕100年、秋も楽しんで！

生誕祭に沸いた夏が過ぎ、「ごんぎつね」の舞台となった矢勝川には、もうすぐ彼岸花が咲き始めます。秋は南吉のふるさとが賑わうもう一つの季節。彼岸花の後も記念イベントが目白押しです。

新美南吉生誕100年記念 ごんの秋まつり

9月20日（金）～10月20日（日）

※彼岸花シーズンの駐車場規制・シャトルバス運行は10月6日（日）まで



ランプの灯りコンサート

10月12日（土）・13日（日） 18：30～20：00

新美南吉の謎解き宝探し～半田に眠る宝を探せ～

10月14日（月・祝） 10：00～16：00

南吉つあんの山車揃え～童話「狐」の世界～

10月19日（土） ※雨天翌日順延

岩滑と岩滑新田の山車4輛が新美南吉記念館に集結。

※詳しくは公式ホームページをご覧ください。

新美南吉生誕100年

検索